

# 富士ダイス 自動化推進 NC加工導入

富士ダイスは、製造拠点の自動化を進め、

現場の省人化を推進する考えた。人手不足の深刻化に対し、設備の見直しで対応する。熊本製造所（熊本県南関町）では原料の合金素材を造る冶金棟のリニューアルに合わせ、汎用設備に代えて、NC加工を導入。平面加工の作業の約60%をNC加工に移管した。NC

Cデータの送信などで遠隔からの管理が可能となり、現場の必要人員の圧縮に成功。春田善和社長は「一段階はクリア。自動化をさらに上乗せしていく」と意気込む。

同社は超硬耐摩耗工具で国内トップシェアの30%以上を誇る。少量多品種を強みとしており、これをいかに自動化ラインへ落とし込むかがポイントだ。まずは合金製造など川上分野から自動化を進める。さらに成功例を横展開し、全社的な自動化を図る。

自動化の投資費用については、設備費と人件費を総合的に管理することで、収益性の最大化を図る構え。春田社長は「人材確保が難しいなら設備で勝つしかない。機械にとれだけ置き換えられるか見極める」と話す。